

中高一貫だより

＜編集・発行＞
えりも地区連携型
中高一貫教育
推進委員会事務局

グローバルな視点を育む「未来えりも学」

えりも地区連携型中高一貫教育推進委員長

(北海道えりも高等学校校長)
佐藤 健



今年1月以来、現在に至るまでニュースの冒頭で「新型コロナウイルス」が第一声となることが、依然と多い状況です。BSニュースによると世界中に進行した感染症は、アマゾン奥の秘境にまで影響しているのではないかと懸念されているようです。現代社会にとって未曾有といえる事態で、成功・失敗を含めた各国の取り組みの様子が世界中に伝えられました。地域社会はその情報を元に未然防止に全力を上げています。人々は科学技術・経済・歴史に至るあらゆる英知を、世界の隅々で共有・認識・駆使して共存のための方策を打ち立て、感染症と戦っています。世界は地域のため、地域は世界のために発信を続けており、「コロナ禍」という大変な事態ではありますが、今ほどグローバル世界とローカル地域社会とのつながりを強く感じたことはありません。17年目となる中高一貫教育も、グローバルな視点が求められています。

えりも町の教育では「未来えりも学」と呼ばれるふるさと学習を行っています。特に中高一貫教育では百人浜植樹等によるえりも緑化事業について学習しています。「森を育てて海も育てる」という考え方は、今や学校の教科書にも載っている、世界的ノーマルな考え方となりつつあります。世界の多くの人々にとって、タンパク質である魚や肉は高価でありなかなか口にすることができません。海が繁栄することにより漁業が盛んになれば、世界の食糧問題を解消できるのではないかといい、大きな期待につながっているのです。一方、森を育てたら海も育ったという成功例は、残念ながらなかなか聞くことはありません。日本海沿岸地域では植樹を続けても、海の磯焼け問題がなかなか解決されないようです。

えりも町には世界に発信するべき素晴らしい取り組みの歴史があり、生徒達にはそれを正しく学び、理解していくことに誇りを持ってもらいたいと思います。えりもの生徒達には、それを地域社会、国際社会と共有し、さらに強固なものに発展させていく一役を、是非担って欲しいと思います。

学力向上に向けた取り組み

えりも中学校とえりも高校間で行われている中高一

貫教育推進事業では、「えりもの子」達の学力向上を軸として、学校間の授業交流を柱とする種々の取組を行っており、今年度で17年目を迎えました。5月に中学と高校の先生方がえりも中学校に集い、今年度の学力向上に向けた取り組みについて話し合いました。「えりも高校がえりもの教育の最終形」を肝に銘じ、今年度も中高の連携を教育に活かしていきます。紙面の都合で一部とはなりますが、教科に関してそれぞれの取組の概要を紹介いたします。

【国語部会】今年度も漢字力の向上、家庭学習の定着、語彙力の向上を目標に中高六年間の系統的な漢字学習を行っています。六年間を通して一つのテキストを繰り返し学習することで、確実な定着を図ります。また高校教員による乗り入れ授業を実施し、中学生の高校入試対策を行う予定です。(高野)	【社会科・地歴公民科部会】例年実施していた長期休業明けのコンクールを縮小し、日常の学習の積み重ねを重視した取り組みをしていきます。また、社会で生きて働く知識技能及び思考力習得への授業改善を図り、生徒の基礎学力及び学習意欲の向上を目指します。また、中1～高1までの環境教育「百人浜に学ぶ」を通し、環境問題に関する意識向上を目指します。(倉内)
【数学部会】今年度は高校教員が週4回中学3年生の授業に入ります。生徒の状況に合わせ、TT形式や少人数授業等柔軟に対応してまいります。また、2月には高校教員も含め、進路希望に応じた習熟度別授業を行う予定です。中高一貫の強みを生かし、進学後スムーズに対応できる力を養います。(伊藤)	【理科部会】理科部会では基礎学力の定着を図るために各種テストの活用を図ります。またえりもの歴史的背景を後世に伝える「百人浜に学ぶ」を通して、自然環境の保護の大切さについて学びます。さらに、中高連携入試に向けた、中高教員によるティームティーチング授業も行います。(大竹)
【英語部会】今年度も生徒のスピーキング能力の向上に力を入れていきます。スピーキングテスト、English Trial、英検二次対策などの補助に当たり、生徒の言語運用能力を高めていきます。(山上)	【保健体育部会】今年度も中高生の体力向上を狙いとして、中1から高3まで新体力テストを実施しています。その結果を分析し、課題に応じた体力向上の取り組みを行います。また、中高生でソフトボールやサッカーの合同体育授業を実施し、生徒同士の教え合い・学び合いの活動を行います。(田中)

環境教育フィールド学習B～高校での取組～

9月16日(水)、中高一貫教育カリキュラムの一つである「百人浜フィールド学習B」を行いました。この事業は、国が1953(昭和28)年から行っている百人浜治山緑化事業を、2006(平成18)年から中高一貫の郷土学習・環境教育に取り入れ実施しているものです。6月に中学生が植樹、9月に高校生が枝打ちすることで、さらなる緑化と先人が守ってきた森林の保全に取り組んでいます。はじめに、えりも岬林業研修センターにて開講式が行われ、えりも町教育委員会教育長 川上松美 様から、この緑化事業は道徳の教科書にも採用されているとても意義のあることを教えて頂きました。また、日高南部森林管理署長 梶岡雅人 様から生徒に向けて緑化事業の歴史と意義に触れ、激励をいただきました。その後、生徒を代表して藤井 柊君から挨拶をしました。最後に、日高南部森林管理署・えりも治山事業所の島下靖博 様 から、枝を落とすことによって、森に光が入り、光合成がしやすくなることや、風通しが良くなり、樹木が大きく成長できることなど、枝打ちの理由を詳しく説明していただきました。開講式終了後、バスに乗車して枝打ち作業場に行き、ノコギリの使い方や、どの枝を切るのか等を指導していただき、枝打ちを行いました。生徒たち24名は熱心に取り組み、40分程度で予定されていた場所の枝打ちを終えることが出来ました。その後、生徒が中学時代(3年前)に植樹した場所に行き、成長を確かめました。自分が植樹したことがわかるように、名前を彫ったプレートがついています。ただ残念ながら成長の具合は良好ではなく、自然を育てる事の難しさを実感できました。



閉講式では梶岡雅人様から、生徒全員に記念品のコースターをいただきました。生徒たちにとって善き思い出となったようです。最後に、代表生徒の長内愛歌さんから今日の振り返りとお礼の言葉を述べました。今年度はコロナ禍で実施が危ぶまれましたが、多方面からの協力のもと、無事終わることが出来ました。御指導御協力いただきました日高南部森林管理署、ひだか南森林組合の皆様、援助いただきましたえりも町役場産業振興課、えりも町教育委員会の皆様に、改めて御礼申し上げます。

百人浜事業を終えて・・・生徒のレポートより

1年A組

フィールド学習を振り返って思ったことはまず、枝落とし作業は大変だったということです。枝落としした後の木々は見栄えが良く、作業前と様子が大きく違い、とてもやりがいを感じましたが、肝心の作業がとても大変でコツがいるということを学びました。また、自分たちが約3年前にカミネコンから作って植えたクロマツの苗木がしっかり育っていて、成長した嬉しさと時の流れの速さを感じました。でも3年たっても少ししか成長してなくて、木が成長するには時間がかかるということを改めて感じ取りました。

今回のフィールド学習を通して、森林に限ったことでなく周りの環境を荒らさず、これから先のことを考えて大切にしていこうと思いました。

1年B組

フィールド学習を通して、私は林業に対しての知識を深めたり、体験したりすることができました。当日は、とても気温が高い中での作業で、何本もの木の枝を切るのは大変で1時間やっただけで疲れてしまうような作業を林業に携わっている人は枝落とし作業を毎年行っていると考ええるとすごいなと感じました。でもこの仕事をしてくれる人がいないと森が荒れてしまい、また、木の下に生えている植物が日光に当たることができずに成長できなくなってしまうことがあります。

今回の学習を通して、木は身近にありながらも意外と大きな役割を果たしていることを知り、木は自分たちや自然にとっても偉大な存在だと学びました。枝落とし後は森の中へ行きづらかった道が通りやすくなり、木がとてもスッキリしていました。今回このような体験をし、木は無くなってはならないものだ改めて思いました。これを機に、木の良さを多くの人に伝えようと思いました。